薪割り機

取扱説明書

HG-MWR38T-R

HG-MWR38T-E

ご使用になる前に、必ず取扱説明書をお読みください。

おねがい

このたびはハイガー製薪割り機をお買い上げ賜わり厚くお礼を申し上げます。
ご使用に先立ち、この取扱説明書をよくお読みいただき本機の性能を十分ご理解の上で、適切な取扱と保守をしていただいて、いつまでも安全に能率よくお使いくださるようお願い致します。 なお、この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。

注意文の ⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 の意味について

使用上の注意事項は、下記マークで表示しています。

⚠危険　誤った取り扱いをした場合、死亡または重傷を負う可能性がある場合のご注意。

⚠警告　誤った取り扱いをした場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合のご注意。

⚠注意　誤った取り扱いをしたとき、使用者が傷害を負う可能性が想定される場合のご注意、及び物的損害のみの発生が想定される場合のご注意。

⚠注意 に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。 いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

本書の内容は、後日変更する場合があります。
本機は国内専用です。

もくじ

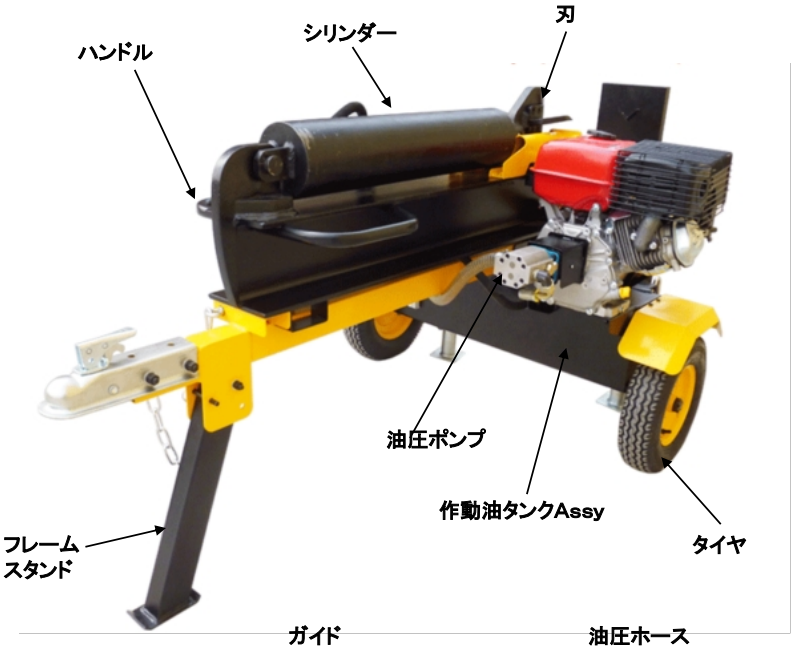
おねがい	2
もくじ	3
安全にお使いいただくために	4
各部の名称	5
組立て	6
運転操作のしかた	23
運転前の点検	28
作業の操作要領	31
点検・整備のしかた	35
長期間使用しないとき	39
故障と思ったら	40
主要諸元	43
品質保証規定	44
お客様ご相談窓口	45

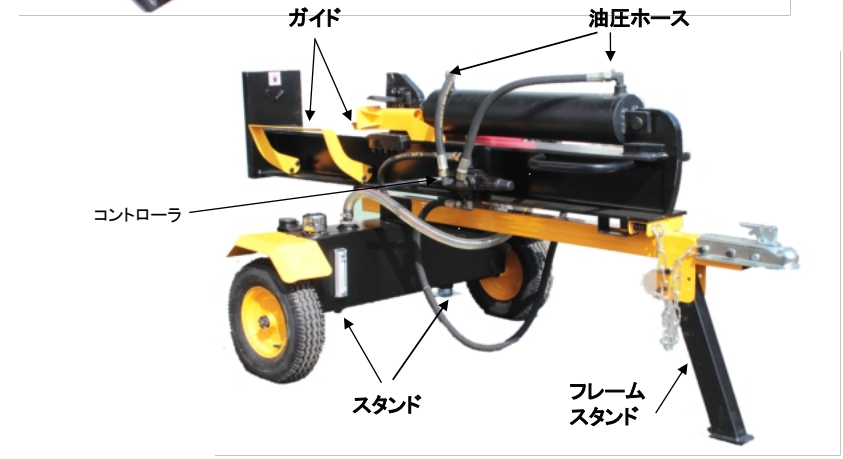
⚠ 警告

・指定された用途以外には使用しないでください。
・身体の調子が悪いとき、判断力に影響するような酒類、薬物を服用して使用しないでください。
・すべりにくい靴、手袋、保護メガネ、保護帽などの作業に適した服装を心掛けてください。
・本体はしっかりとした水平な場所に設置してください。
・騒音から耳を守る為、適切な保護具を使用してください。
・正しい操作を知らない人、子供には操作をさせないでください。
・作業場所には、人や動物を近づけないでください。
・割った木につまずかないように、機械の周辺は整理してください。
・作業は、十分な採光のもとで作業してください。
・ご使用前には各部のネジ類がしっかり締まっているか確認してください。
・本機の組立てや設置は2名以上で行って下さい。
・2名以上で薪割り機を操作しないでください。
・エンジンを始動する前には使用前点検を必ず行ってください。
・燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して、屋外の換気の良い場所で行って下さい。
・燃料をこぼさないように注意し、燃料タンクキャップを確実にしめてください。
もし、燃料がこぼれた場合はきれいにふき取って下さい。
・排気ガスには十分に注意してください。
・衣類や髪を可動部に近づけないでください。 巻き込まれる可能性があります。
・使用中に異常が発生した場合は、速やかにエンジンを停止し、異常原因を調べてください。損傷があった場合には、完全に補修した後でなければ薪割り機を再始動しないでください。
・エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどすることがありますので注意してください。

●保管のときの注意

・薪割り機を長時間保管するときは、取扱説明書にしたがって保管してください。
・シートカバーなどは機械が十分冷めてからかけてください。
・定期点検整備を行ってください。

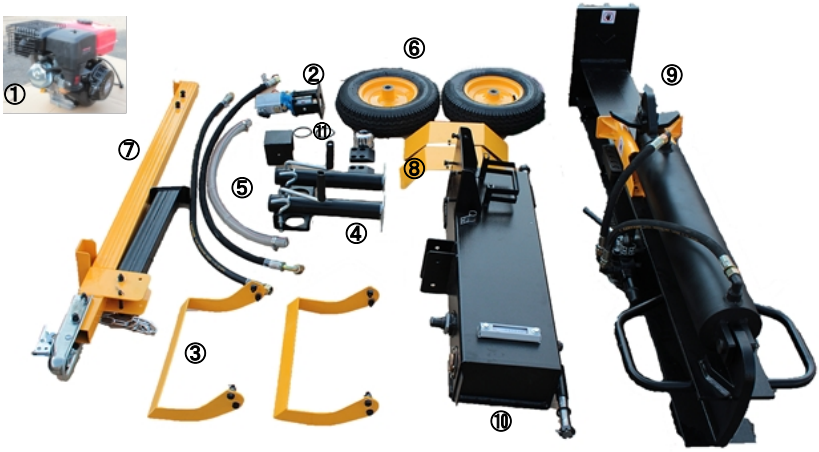

刃
シリンダー
ハンドル
油圧ポンプ
作動油タンクAssy
タイヤ
フレーム
スタンド


ガイド
油圧ホース
コントローラ
スタンド
フレーム
スタンド

組立て方法

●部品一覧

念のため、各パーツが不足していないかのご確認をお願いいたします。
不足している場合は、お手数ですがハイガー産業までご連絡ください。



①	エンジンAssy	1	⑦	メインフレーム	1
②	油圧ポンプ	1	⑧	タイヤカバー	1
③	ガイド	2	⑨	シリンダAssy	1
④	スタンド	2	⑩	作動油タンクAssy	1
⑤	油圧ホース	3	⑪	E形止めリング	2
⑥	タイヤ	2			

⚠ 警告

- 組立てはなるべく2人以上で行って下さい。
- 重量物の運搬は、2人以上で行って下さい。
- 組立て時は、手袋、長袖シャツなどの保護具を使用してください。
- 平坦で固い地面の上で組立て作業を行って下さい。

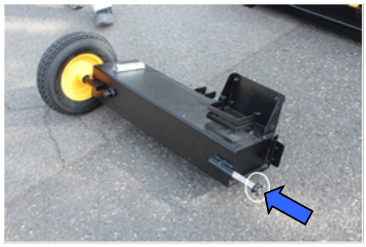
●STEP1　タイヤの取付け

作動油タンクAssyに、タイヤを取り付けます。

手順

①タイヤにエアー漏れが無いかを確認してください。

②タイヤシャフト から割りピン、ナット、ワッシャを取り外します。



③取り外したシャフトにタイヤを挿入しワッシャ、ナット、割りピンの順で取り付けます。

④作動油オイルドレインのドレインボルトを一旦外し、ゴムワッシャを挟んで締め直してください。

●STEP2　スタンドの組立て

作動油タンクAssyにスタンドを取り付けます。

手順

①スタンドを2セット、C形止めリングを
　2個　準備します。
②作動油タンクAssyのスタンド取付け
　位置に、スタンドを合わせます。

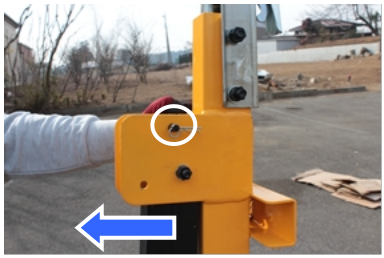
③タンクAssy取付けパイプ部分に溝があります。 その溝にC形止めピンを
　工具を使ってはめこみます。

●STEP3　メインフレームの取付け

作動油タンクAssyにメインフレームを取り付けます。

手順

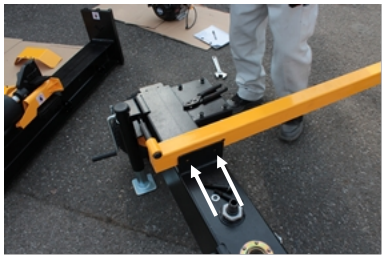
①メインフレームを準備します。



②メインフレームにあるスタンドを立てます。
スタンドを固定しているピンを抜きます。
スタンドを立てた状態にして、ピンを入れ固定します。

③メインフレームを作動油タンクAssyに取り付けるボルトが2本仮止めされていますので、一旦外します。

④一旦外したボルトを通し、ワッシャ、スプリングワッシャ、ナットの順で通して、しっかり締めます。



●STEP4　タイヤカバーの取付け

作動油タンクAssyにタイヤカバーを取り付けます。

手順

①タイヤカバーを2個を準備します。

②タイヤカバーに仮止めしているボルトを外します。

③作動油タンクAssyにタイヤカバーを取り付けます。

●STEP5　シリンダAssyの取付け

シリンダAssyをメインスタンドに取り付けます。

手順

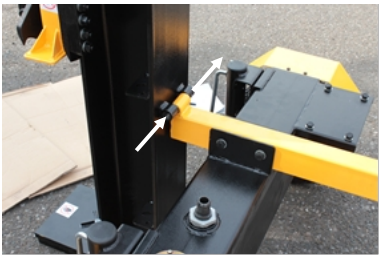
⚠警告

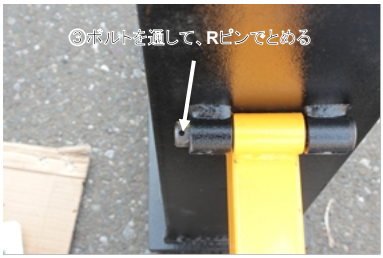
・組立ては2人以上で行って下さい。
・重量物の運搬は、2人以上で行って下さい。
・組立て時は、手袋、長袖シャツなどの保護具を使用してください。

①シリンダAssyを立てます。

②メインフレームをゆっくりシリンダAssyに近づけます。

③シリンダAssyの接続穴とメインフレームの接続穴を一致させ、ボルトを通して、Rピンでとめます。





●STEP6　エンジンと油圧ポンプの取付け

エンジンを作動油タンクAssyに取り付けます。

手順

①エンジンを準備します。

②エンジンを作動油タンクAssyに4本のボルトで固定します。

シャフトの向きに注意してください。

メインフレームのスタンド及び作動油タンクAssyのスタンドはしっかり地面に接地させてください。

⚠警告

・組立ては2人以上で行って下さい。
・重量物の運搬は、2人以上で行って下さい。
・組立て時は、手袋、長袖シャツなどの保護具を使用してください。

●STEP7　エンジンと油圧ポンプの取付け

エンジンに油圧ポンプをAssyし、本体に取り付けます。

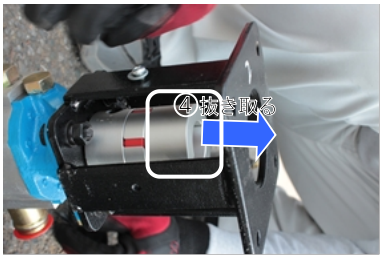
手順

①エンジンを準備します。

②エンジンシャフトの保護カバーをキーブロックが外れないように注意しながら、取り除きます。

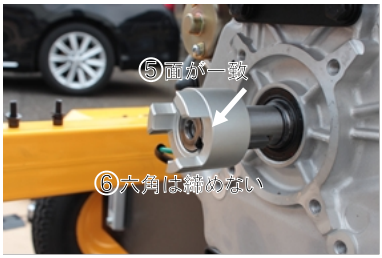
③油圧ポンプを準備します。

④油圧ポンプの一番外側についているカプラの六角ネジを緩めて抜き取ります。



⑤油圧ポンプから外したカプラをエンジンのシャフトに挿入、エンジンシャフトの端とカプラの面が一致する位置まで、差込ます。

⑥六角ネジの締め付けはまだしません。



⑦エンジンに油圧ポンプを配管の種類と方向に注意して取り付けます。

⑧油圧ポンプの取付け位置は、配管Bをメインフレーム側にくるように取り付けます。

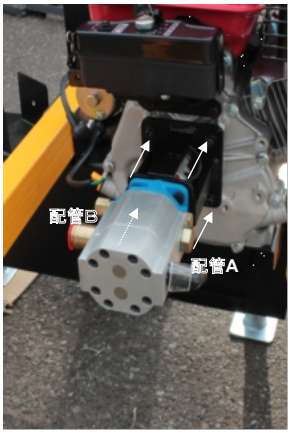
⑨4箇所のボルトを均等に軽く締めます。

⑩リコイルを数回引っ張り、油圧ポンプが軽く回る事を確認してください。

⑪固い場合、油圧ポンプの取付けボルトを少し緩め、上記の作業を行います。

⑫4箇所のボルトを均等にしっかり締めます。

⑬カプラの六角ボルトをしっかり締めます。



●STEP8　コントロールレバーの取付け

レバーをコントローラに取付けます。

手順

①コントローラに仮止めしている
ピンを一旦抜きます。

②レバーの取り付け穴とコントローラ
の取付け穴を一致させ、ピンを挿
入し、割りピンでとめます。

●STEP9　ガイドの取付け

ガイドをシリンダAssyに取り付けます。

手順

①ガイドに仮止めされているボルトを外します。

②シリンダAssyにボルト4本で取付けます。

③左右同じ要領で取り付けます。

④取付け角度が調整できます。

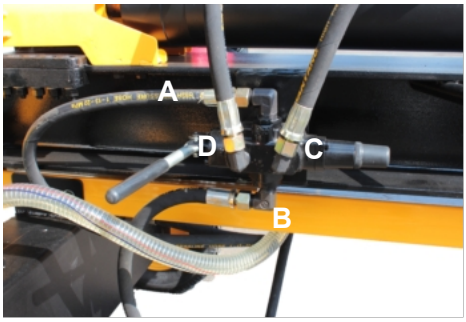
●STEP10　油圧ホースの取付け

油圧ホースを取り付けます。

手順

①油圧ホースを準備します。
黒色のホースが2本、透明ホースが1本
油圧ホースの両端には、接続先を示すアルファベットシールが貼られています。

各ホースの接続先を示しています。



フレアナットになっていますので締めすぎに注意してください。
始動後オイルが漏れる場合は増し締めしてください。

本体側に付いているオス側の配管接続部は絶対にゆるめないで下さい。油漏れの原因になります。

●STEP11　バッテリーの取付け HG-MWR38T-Eのみ

バッテリーを作動油タンクAssyに取り付けます。

手順

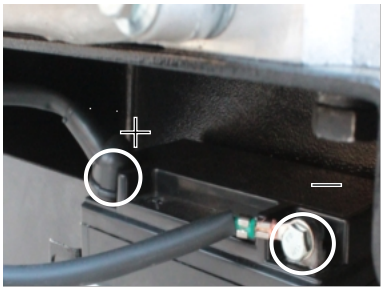
①バッテリーを準備します。

②バッテリーを作動油Assyのバッテリーホルダーにのせます。

③バッテリーは配線端子がある側を表側にします。

④ステーをボルトでしっかり固定します。

④ステーをボルトで固定



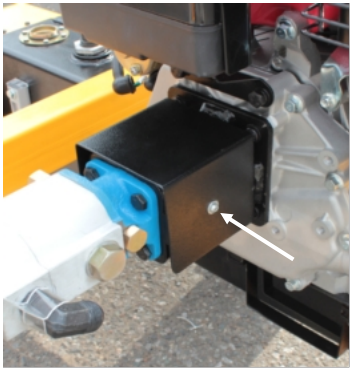
●STEP12　油圧オイルポンプカバーの取付け

油圧オイルポンプのカバーを取り付けます。

手順

①オイルポンプカバーを準備します。

②両側からボルトでしっかり止めます。



⚠ 警告

・カップリング部は回転しています。 必ずカバーを取り付けて運転して下さい。
・手や衣服など触れないよう注意してください。巻き込まれによる受傷事故・死亡事故の恐れがあります。

⚠ 注意

一度取り付けますが試運転後に取り外し、カップリング部に異常がないことを確認して再度取り付けてください。（カバーがない状態での運転は絶対にやめて下さい。）

●STEP13 作動油の給油

作動油タンクに作動油を給油します

手順

①タンク上部のキャップを取り外し作動油（油圧用オイル32番）を給油します。

容量はおおよそ20ℓとなります。

⚠ 注意

挿入前にタンク底部にあるドレンボルトが緩んでいないか必ず確認してください。

●STEP14 エンジンオイルの給油

エンジンにエンジンオイルを給油します。

手順

①エンジンについているオイルキャップを取り外しエンジンオイルを給油します。

容量はおおよそ1.0ℓとなります。

推奨オイルは4サイクルガソリンエンジン専用　100%化学合成油
粘度は10W-30です。）
※寒冷地は5W-30、極寒冷地は0W-30を推奨します。

●STEP15 燃料の給油

無鉛レギュラーガソリンを給油します。

手順

①燃料タンク内にガソリン（無鉛レギュラーガソリン）を給油します。
容量は約 5.8 ℓとなります。

⚠ 警告

・運転中、またはエンジンがまだ熱い時に、ガソリンを注入しないでください
・ ガソリンの給油は室外で行って下さい。
・点検、整備を行うときは、エンジンを停止してください。
・換気の良い場所で行って下さい。
・火気を近づけないでください。
・静電気を除去してから給油してください。
・燃料はこぼさないように補給してください、万一こぼれたときは完全にふき取って下さい。
・燃料は注入口の口元までいれず給油限界位置を超えないように補給して下さい。

⚠ 注意

・補給時、燃料タンク内に水、雪、氷が入らないように注意してください。
・ハイオクガソリンは使用しないでください。

●エンジンのかけかた

1. エンジンスイッチをONにします。
   1.1 セルスターターのキーをONにします。(HG-MWR38T-E)

2.②のレバーでエンジンの回転数を左側(高回転)にします。

3.③のガソリンコックを右いっぱい(ON)にします。

4.④のチョークつまみを左いっぱいにします。

5. リコイルスターターを引きます。

   5.1セルスターターのキーをSTARTにします。(HG-MWR38T-E)

6. エンジンを起動後、暖気運転を行い、運転状況を確認します。

異常がなければ④チョークつまみを右にまわします。

⚠警告

エンジン停止直後に、マフラー及び周辺パーツはまだ非常に熱いため、やけどの恐れがあり、触らないようご注意ください

●エンジンのとめかた

1. エンジンスイッチをOFFにします。
   1.1セルスターターのキーをOFFにします。（HG-MWR38T-E）

2.ガソリンコックを左いっぱいにまわします。

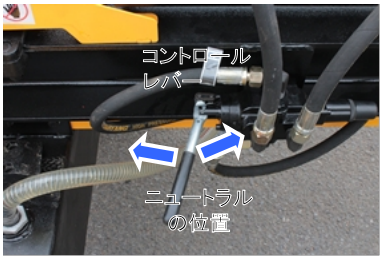
⚠警告

エンジン停止直後に、マフラー及び周辺パーツはまだ非常に熱いため、
やけどの恐れがあり、触らないようご注意ください

●コントロールレバーの操作方法

薪割りの操作は、コントロールレバーで行います。

コントロールレバーの操作



コントロールレバーを前進方向に倒すと、刃も前進します。
コントロールレバーから手を離すと、コントロールレバーはニュートラルの位置にもどり、刃はその状態で停止します。

コントロールレバーを前進方向に倒し続け、刃が置き台より、約2cmまで近づくと刃の前進は自動的に停止します。

コントロールレバーを後進方向に倒すと、刃も後進します。
コントロールレバーから手を離しても、刃は後進を続け、一番後進した状態で停止します。

刃の後進動作を中断させるときは、操作レバーをニュートラルにします。 刃は後進動作を停止します。

⚠警告

操作は2名以上で行わないで下さい。やむを得ず2名以上、複数での作業時は、声賭けを行い互いが全員の安全に注意して行って下さい。

●シリンダを立てる操作

⚠警告

・操作は2人以上で行って下さい。
・平坦で固い地面に薪割り機を設置してください。

①スタンドを地面に設置させます。

②メインフレームにシリンダをとめているピンを引き抜きます。

③ハンドルを持ち上げ、ゆっくり起こしていきます。
ハンドルの移動に合わせて、支えている体も少しずつ移動させます。
ハンドルを約45°まで起こした以後は、
ハンドルが跳ね上がる向きに力が変わるので、
ハンドルを押さえるような体制をとります。

④シリンダが直立するまでゆっくり起こします。

●シリンダを横にする操作

⚠警告

・操作は2人以上で行って下さい。
・平坦で固い地面に薪割り機を設置してください。

①スタンドを地面に設置させます。

③ハンドルを押し下げ、ゆっくり倒していきます。
ハンドルの移動に合わせて、支えている体も少しずつ移動させます。
ハンドルを約45°まで倒した以後は、ハンドルが跳ね上がる向きに力が変わるので、ハンドルを押さえるような体制をとります。

④シリンダが水平になるまでゆっくり起こします。

⑤メインスタンドとシリンダAssyをとめているピンを差込み、Rピンを入れます。

●燃料の点検

燃料（無鉛ガソリン）の量を点検します。

・燃料タンクキャップを外し、液面を見て残量を確認します。
・少ないときは上限の位置まで補給してください。

補給のしかた

使用燃料　自動車用無鉛ガソリン
（レギュラーガソリン）

燃料タンク　5.8ℓ

補給後、給油キャップを確実に閉めてください。

⚠ 警告

・運転中、またはエンジンがまだ熱い時に、ガソリンを注入しないでください
・ ガソリンの給油は室外で行って下さい。
・点検、整備を行うときは、エンジンを停止してください。
・換気の良い場所で行って下さい。
・火気を近づけないでください。
・静電気を除去してから給油してください。
・燃料はこぼさないように補給してください、万一こぼれたときは完全にふき取って下さい。
・燃料は注入口の口元までいれず給油限界位置を超えないように補給して下さい。

⚠ 注意

・補給時、燃料タンク内に水、雪、氷が入らないように注意してください。
・ハイオクガソリンは使用しないでください。

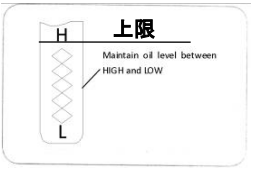
●エンジンオイルの点検

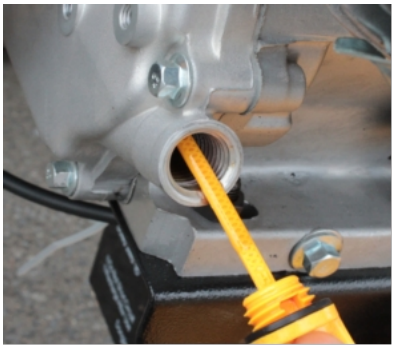
エンジンオイルの量、よごれを確認します。

1.車体を水平な場所に移動させます。
2.オイル給油キャップを外します。
3.オイルゲージの上端までオイルがあるか点検してください。
4.オイル量が少ないときは、新しいオイルを補給してください。

推奨オイル　SAE 10W-30
オイル容量　1.0ℓ

オイルゲージ





●タイヤの点検

点検時期　　作業を始めるとき

点検のしかた

・目視にて破損や亀裂が無いかを確認して下さい。
パンク、亀裂が見つかった場合は、修理または新品と交換してください。

・タイヤの空気圧を確認して下さい。
空気圧は1.5kgf／cm2（150Kpa)になります。

⚠ 警告

タイヤのパンクは重大な人身事故を引起す恐れがありますので、十分にご注意ください。

薪割り作業の操作要領

⚠ 警告

・安全注意事項に注意しながら薪割り機を操作してください。
・エンジン回転中には絶対に薪割り機を離れないでください。
・エンジン回転中には薪割り機を移動しないでください。
・商品荷降し及び開梱の際は十分に気を付け下さい。商品本体及び各部パーツは非常に重いため、フォックリフトフォークリフトなどの運搬道具を使って行って下さい。
・ 安全靴を履いて下さい。
・ 保護メガネも忘れずにかけて下さい。
・作業のしやすい服を着用して下さい。ネックレス、不適切な服装などは薪割り機の稼動部分に巻き込まれやすいため危険です。
・平坦で、固い地面に薪割り機を設置してください。
・万が一薪割り機が動き出すのを防ぐため、タイヤを常に輪止めなどで固定して下さい。
・長い薪は割る前に適切な長さに切って下さい。
・昼間または視界の良い明るいところで作業して下さい。
・エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどすることがありますので注意してください。

⚠ 警告

・ガソリンが蒸発しやすく、非常に燃えやすいため、ガソリンの保管及び使用は十分に気を付けて下さい。
・ガソリン補給時に手及び作業服に付いた場合は、すぐ水で洗って下さい。
・密閉した部屋でガソリン補給はしないでください。
・エンジン運転中、またはストップ直後に温度まだ高い場合にガソリン補給はしないでください。
・エンジンストップしてから心なくとも5分間以上を経ってから、ガソリン補給を行います。
・燃料タンク容量以上にガソリン補給はしないでください。
・燃料タンクキャップを常にしっかり締めて下さい。
・ガソリンが地面に漏れた場合は、薪割り機表面のガソリンをきれいに拭いて、ほかのところに薪割り機を移動して、5分待ってから作業スタートして下さい。
・ガソリン保管は火気、電気機械、燃えやすい物と離れて保管して下さい。

●試運転

エンジンをかけ、刃を動かしてみます。

①運転操作のしかたを十分理解してください。
②運転前の点検をしてください。
③薪割り作業の操作要領を十分理解してください。
④警告事項を読み必ず守ってください。

⑤平坦で固い地面に薪割り機を設置し、タイヤに輪止めをかけてください。
⑥操作要領にしたがってエンジンを始動します。

⑦油圧システム中の気泡を排出させるため、コントロールレバーで刃を最上限から最下限まで移動させ、この動作を15回繰り返して下さい。これによって、作動油が油圧システム全体に均等に行き渡ります。
⑧各部からの油もれを点検してください。
⑨各部のネジの緩みを点検し、緩みがあれば増し締めを行って下さい。

●薪を割る操作要領

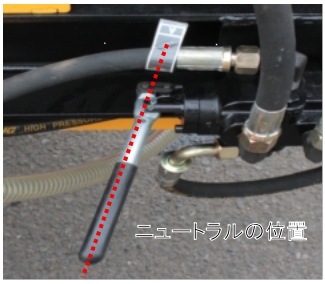
平坦な地面に薪割り機を設置し、タイヤに輪止めをかけてください。

①薪を本体に置きます。

②コントロールレバーを刃が出る方向へ倒すと、その間刃が前進します。
③刃が前進し、薪を割ります。
④薪が割れたところでコントロールレバーから手を離すとコントロールレバーはニュートラルにもどり、刃の前進は止まります。
④コントロールレバーを倒し続けても、刃が底板から約3cmの位置で自動的に停止します。

⑤コントロールレバーを、刃が戻る方向に倒します。 刃が戻り始めます。
⑥コントロールレバーから手を離しても刃は戻り続け、ピストンがシリンダに格納された状態まで戻った時点で停止します。

⑥効率的に薪を割るには、次に割る薪の高さまで刃が戻ったところで、コントロールレバーをニュートラルの位置に戻し、刃の上昇を止めます。
⑦次の薪を本体に置きます。 上記の作業を繰り返します。



●快適に薪割りを行うために

・玉切り直後で小口の湿っている間が割りやすく、乾くと割りにくくなっていきます。
・うまく割れないときは、薪の置き方を変えて作業してください。
・節がある場合は、刃に節があたらないように薪を置く事で、薪が割れやすくなります。
・薪の材質、高度によっては、割れにくい場合があります。
・薪が小さすぎる時は、ほかの木片で固定させ、割って下さい。
・薪の切断面がデコボコの時は、できるだけ比較的に平坦な切断面を地面に向けて置き、デコボコの切断面を刃に向けて置いて下さい。
・縦姿勢で薪を割る時には、薪が揺れないようしっかり置いてください。

⚠ 注意

・もし割れない場合、3秒以上加圧し続けないでください。
それ以上、加圧し続けると、装置に大きな力が加わり、シリンダAssyが損傷、湾曲する恐れがあります。
・割りにくいときは、刃を年輪に対して接線方向にかける、刃の1/3ほどかけるなど、刃の入れ方を変えてください。

⚠ 警告

・常に丸太の切断面ではなく、側面を持つ習慣を付けて下さい。
・足で丸太を固定するのも絶対にやめて下さい。
圧力が非常に大きなため、重傷を負う可能性があります。
・薪を置く人が薪割り機を操作してください。
・一回に二つの薪を同時に割ることはしないでください。
・薪にヒビ入っているところに絶対に指を置かないで下さい。

⚠ 警告

・油圧ポンプには非常に高い圧力を持っているため、衝撃などの原因によりヒビ、小穴などを起こした場合は、高圧力のオイルが噴出し、使用者が死亡または重傷を負う可能性がありますので、以下の操縦注意事項を常にご注意ください。
  a. 裸手で直接機械パイプなどの検査をおやめ下さい。
  b. ホース、チューブ、接続具に摩耗、曲れ、ヒビ、ダメージなどがあった場合は、必ず使用を停止して下さい。
  c. ホース、チューブ、接続具など機械各部のパーツを交換調整するときは、必ず先にエンジンをストップしてから行って下さい。
  d. ポンプ、またはバルブを調整し、薪割り機の圧力を調整するのは絶対におやめください。
・漏れ検査するときは、保護手袋、保護メガネをかけて、カートンボックスなどを使って、漏れと疑われるところに置いて、変色、汚れがあるかを検査して下さい。
・万が一、漏れ油圧で負傷した場合、迅速・適切に医師の診断を受けてください。
・作業場の清潔、安全を常に確保して下さい。足を引っかける一切の障害物を撤去して下さい。
・薪割り機の作業場には必ず清潔、安全を守って下さい。木材、ガラス、燃料など燃えやすい物は必ず離して保管して下さい。
・エンジンキーを抜き安全を確保し作業を行って下さい。
・作業中にエンジンを始動するようなことは絶対にやめて下さい。また周囲に子供や動物が近づかないよう配慮をお願い致します。
・本体はしっかりとした水平な場所に設置してください。
・作業は、十分な採光のもとで作業してください。
・排気ガスには十分に注意し、換気の良い場所で行って下さい。
・火気を近づけないでください。

・作業には工具を使用することがあります。必ず用途やサイズの合ったものを使用し自身や周囲の確認をしながら安全に作業を行って下さい
・メンテナンス終了後は汚れが付着しない場所かカバーなどをかぶせて保管ください。

●燃料系の点検・メンテナンス

燃料タンクのガソリン、キャブレターのガソリンを抜きます。
ガソリンを受ける容器を用意してください。

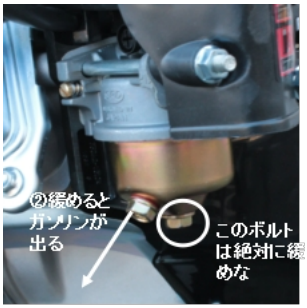
1.燃料タンクのキャップを外し、タンク内の燃料を抜きます。

2.①ガソリンコックをONにします。

3.②部分の斜めについているボルトを緩めて、ガソリンを容器にうけます。
キャブレターの燃料を抜くことができます。

③のボルトは絶対に緩めないで下さい。

4.緩めたボルトは、必ずしっかり締めて下さい。



⚠警告

緩めたボルトは、必ずしっかり締めて下さい。　ガソリンがもれると引火の危険があります。
こぼれたガソリンは布などで、直ちにふきとってください

●作動油のメンテナンス

◆作動油の交換

交換時期

作動油は、100時間おきか、または1年に1回行ってください。

交換方法

・廃油受けを準備します。
・作動油Assyの底にあるドレインボルトを緩めます。
・作動油が排出されます。
・排出が終わりましたら、ドレインボルトを締めます。
・作動油Assyのオイルキャップをあけます。
・ごみや水分など異物が混入しないように入れます。

オイル規格	ISO VG	32番
オイル容量		20L

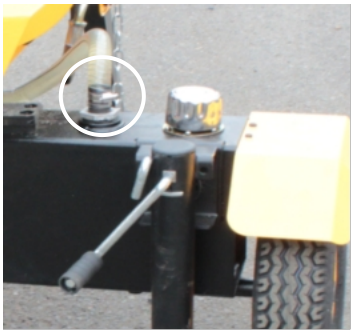
◆オイルフィルタの洗浄

洗浄時期

オイルフィルタは、100時間おきか、または1年に1回行ってください。

洗浄方法

・作動油Assyのオイル出口のナットをはずします。
・オイルフィルタを取り出します。
・灯油などでオイルフィルタに付着したごみを取り除きます。
・オイルフィルタを戻し、ナットをしめます。



◆作動油の動作温度

作動油の粘度は、温度が上昇するほど低くなります。 温度が上昇し過ぎた場合は、油の潤滑性が悪くなり、劣化を促進したりポンプ効率が悪くなります。 作動油の使用温度は+70℃の範囲内でご使用ください。

●エンジンオイルの給油、点検

交換時期　　初回20時間 以降、50時間ごと

推奨オイル　　使用オイル　SAE　10W-30

規定量　　1.0L

交換のしかた

1.機械を水平な場所で水平な状態にします。

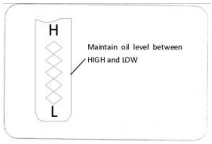
2.オイル受けを用意してください。

3.オイル給油キャップ、ドレインボルトを外してオイルを抜きます。ドレインパイプが一緒に回らないように、パイプを押さえながら、ドレインボルトを回します。

4.オイルが抜けたらドレインボルトを確実に締めます。

5.新しいエンジンオイルをレベルゲージの上限まで入れます。

6.注入後、オイル給油キャップを締めます。



長期間使用しないとき

薪割り機を長期に渡り使用しないときは、次の手入れを行ってください。

⚠ 警告

・エンジンキーを抜き安全を確保し作業を行って下さい。
・作業中にエンジンを始動するようなことは絶対にやめて下さい。また周囲に子供や動物が近づかないよう配慮をお願い致します。

⚠ 注意

・作業には工具を使用することがあります。必ず用途やサイズの合ったものを使用し自身や周囲の確認をしながら安全に作業を行って下さい
・メンテナンス終了後は汚れが付着しない場所かカバーなどをかぶせて保管ください。

1.保管するときは、平坦な地面にスタンドを接地、タイヤ止めをしてください。

2.エンジンキーを抜いて下さい。

3.燃料タンク、キャブレターの燃料を抜きます。

4.燃料タンクの口にある、燃料ろ過カップを清掃します。

5.バッテリーの手入れをします。

6.各部ボルトの破損、腐食、緩みの点検をします。

7.防錆、給油を行います。

故障と思ったら

機械が故障と思われるときは、まずご自身で下表を参考に点検・修理を行ってください。

●エンジンがかからない

症状	原因	対処
点火プラグに火花が出ていない	①始動スイッチボタンの不良、 ②スパーク・プラグ不良 ③スパーク・プラグ・キャップ接続不良 ④イグニッションコイルの不良 ⑤イグニッションに関る配線不良	交換 交換 調整 交換 正しく接続
キャブレターに燃料が来ていない	①燃料がはいっていない ②燃料コックが閉じている ③燃料ホースの詰まり、漏れ ④燃料タンク錆びまたは、異物混入による詰まり	燃料を入れる コックを開く ホース清掃、交換 交換、フィルタ清掃
エンジン内に燃料が来ていない	①キャブレータ詰まり（ニードル・バルブ膠着）	キャブレタ分解掃除
エンジンがとまらない	①キーボックスの取付けブラケットのアース不良	取付けブラケットの接地を良くする

現象	原因	対処
シリンダー動かない	1. 駆動シャフト壊れた. 2. プラグが液圧ホースの中に落ちた 3. シリンダーボルトが緩んだ 4. シャフト位置ずれた 5. ギア損傷 6. 安全バルブ損傷 7. 液圧オイルパイプ汚れまたは破損 8. 液圧オイル不足 9. 方向バルブ損傷 10. 方向バルブ塞がれた	1. メーカーとコンタクト 2. 液圧ホースの片側をはずし、プラグを取出し、ホースを戻す。 3. メーカーとコンタクト 4. エンジン/ポンプ/シャフト位置 を調整 5. メーカーとコンタクト 6. メーカーとコンタクト 7. 液圧システムをクリーニング、パイプ交換 8. オイル補給 9. メーカーとコンタクト 10. 液圧システムクリーニング
シリンダー伸縮スピード遅い	1. ギア損傷 2. 真空ポンプ汚れ 3. エンジンスピード遅い 4. 真空ポンプ破損 5. オイル不足 6. オイル汚れた 7. 方向バルブオイル漏れ 8. シリンダー内部損傷	1. メーカーとコンタクト 2. 直径太い、長さ短いホースをご使用下さい。ホースを常に清潔にして下さい。 3. メーカーとコンタクト 4. メーカーとコンタクト 5. オイル補給 6. オイルタンクを清掃 7. メーカーとコンタクト 8. メーカーとコンタクト
薪割りｽﾋﾟｰﾄﾞ遅い	1. ギア損傷 2. ポンプバルブオイル漏れ 3. 真空ポンプ汚れ 4. オイル不足 5. オイル汚れ 6. バルブ内部オイル漏れ 7. 丸太が硬すぎ 8. シリンダー内部損傷	1. メーカーとコンタクト 2. メーカーとコンタクト 3. 真空ポンプホースを清掃 4. オイル補給 5. オイルチェンジ 6. メーカーとコンタクト 7. 定額出力を超えない範囲内で、 薪を選択してください。 8. メーカーとコンタクト

現象	原因	対処
薪割り時にエンジンストップ	1. エンジン出力不足 2. 薪が硬すぎ 3.ガス欠	1. メーカーとコンタクト 2. 定額出力を超えない範囲内で、薪を選択してください。 3.ガソリンの補給
エンジン突然停止	1. エンジン/ポンプ故障 2. 低温でポンプ凍結 3. エンジン出力不足 4. 液圧オイル漏れ 5. バルブは汚れで塞がれた 6.ガス欠	1. メーカーとコンタクト 2. メーカーとコンタクト 3. メーカーとコンタクト 4. 液圧システム清掃 5. 液圧システム清掃 6.ガソリンの補給
ポンプシャフト密封シールオイル漏れ	1. シャフト破損 2. エンジン/ポンプ故障 3. ギア破損 4. 密封シール位置ずれた 5. オイル通風口塞がれた	1. メーカーとコンタクト 2. メーカーとコンタクト 3. メーカーとコンタクト 4. メーカーとコンタクト 5. 清掃する

主要諸元

エンジン	4サイクル/9HP
粉砕力	38トン
サイクルタイム	オートリターン15秒
最大薪割り長さ	570mm
薪割り可能	丸太直径 500mm
薪割り方向	縦＆横
オイルポンプ圧	21Mpa
作動油流量	13/3.0L
始動方式	リコイル式
ウェッジ（刃）	十字型4枚刃（単刃に変更可）
作動油	#32　18～20リットル入れてください
燃料 レギュラー	5.8L
エンジンオイル	4ストオイルを1リットル入れてください。粘度10W-30
寸法（寝かせた状態）	2160*1180*950mm
本体重量	280kg

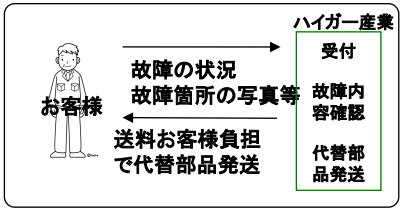
この仕様諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

お客さまご相談窓口

まず、「故障と思ったら」を参考に、ご自身で点検してください。

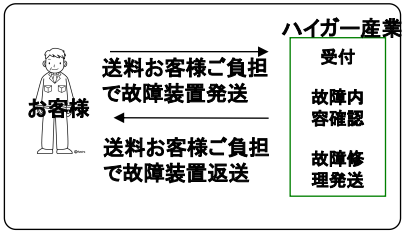
●故障部品をお客様で交換される場合

保証期間内は消耗品を除き壊れた部品は当社で保証します。
送料は全てお客様のご負担となります。



●故障品をメーカーで修理する場合

保証期間内の本体修理も無料で承ります。
その際に生じる往復の送料はお客様のご負担となります。



修理を依頼される時は
下記の事項をご連絡ください。

① 故障の状況
② 型式
③ 製造番号
④ ご購入年月日
⑤ お名前、ご住所、電話番号

お問合せ先
本社 ハイガー産業株式会社
〒370-0503
群馬県邑楽郡千代田町赤岩3072-3
TEL0276-55-2275 FAX0276-55-2276

HAIGE